

国内研修 成果報告書

〈研修テーマ〉

「人と馬によるまちづくり ～国内有数の馬の生産地ならではの実践～(岩手県遠野市)」
「震災からの復興プロセス ～東日本大震災から学ぶ地域づくり in 陸前高田～(岩手県陸前高田市)」

〈研修先選定の動機〉

これまで人を中心としたまちづくりを学んできた。今回は人と馬が共存している岩手県遠野市に焦点を当て、人と馬の関わりを視察し、長い年月をかけて守り続けられてきた文化を学びつつ、人と馬が共存する社会について研究する。

東日本大震災で東日本は壊滅的な被害を受けた。その後、SDGs 指定都市に選ばれた陸前高田市をフィールドに、復興プロセスを学びながら、自分たちなりの震災対応とまちづくりについて考える。

〈研修スケジュール〉

- 8月5日 東京駅出発→一関駅着
- 8月6日 陸前高田市、市内観察
- 8月7日 農協農用馬生産部会訪問・高清水牧場訪問
- 8月8日 一関駅発→東京駅着

岩手県遠野市は藩政時代より馬産地として全国に名を馳せてきた歴史ある地域であった。遠野市の代表的な建築様式である「南部曲り家」は、馬を家族同様に大切に扱う習慣が受け継がれた馬産地ならではの建物である。「遠野物語」の1つである、「おしらさま」の民話や、豊作を祈願する「馬っこつなぎ」という伝統行事、「やぶさめ」、「馬搬」など、多様な馬事文化が現在も伝えられている。その中で私たちは今回、「馬搬」について研究するために岩手県遠野市を訪れた。そして、現在は一般社団法人馬搬振興会代表理事を務め、馬と人がともに働く機会の創出や、西アフリカでの馬耕指導をはじめ、畜力活用技術指導による国際貢献にも尽力されている、岩間敬さんにお話を伺った。

馬搬とは馬によって木材を運搬する伝統的に用いられてきた森林作業である。岩間さんのお話の中から、日本において馬の歴史は古く、当時馬は戦力として重用されていたが、近代の機械化により輸送・農耕手段は機械で行われるようになったことがわかった。今回の研修で私が感じた馬搬のメリットとデメリットについて以下にまとめる。社会的メリットとしては、環境教育・ホースセラピーに繋がること、燃料費がかからないため金銭的にも環境にも良いということが挙げられる。馬との触れ合いの中で、ストレスの軽減し、自

己肯定感を高めるなど心理的効果が期待されるほか、体感やバランス感覚といった健康な体づくりも期待される。また現場的メリットとしては、機械が使えない場所で作業ができること、小回りが利くため効率よく作業ができること、機械では作業をすることができない急な斜面でも作業ができる点などが挙げられると考えた。反対にデメリット(課題)としては、馬や馬を調教する人への指導が大変であること、馬の世話があることなどが考えられる。デメリットとして挙げた、馬や馬を調教する人への指導については、岩間さんが何度も仰っていた点である。馬搬は馬との共同作業であり、信頼関係そのものである。そのため、馬を引き取り、馬搬・馬耕用に何年もかけて調教することは容易ではないことがわかった。

日本における馬搬作業の現状としては衰退してきている。イギリスなどでは馬搬協会が存在し、国全体として馬搬が推進されている地域もあることがわかった。そのような中で、岩間さんのような数少ない伝統作業を受け継いでいる方々が、牧場や小学校において馬搬を通じた環境教育を行っている。また、岩間さんは、馬耕で作る米を「馬米(うまい)」として販売するなど、馬搬や馬耕に付加価値を付けた様々なビジネスを展開している。このようにして、伝統的な森林作業を受け継ぎ、新規ビジネスを展開していることがわかった。

私たちは東日本大震災により津波の被害を多く受けた、陸前高田市を訪問した。震災前は商店街であった場所も今ではお店の数が減少し、田んぼの面積が多くを占めていた。震災から十年以上たった今もまだ復興途中であると感じた。また、私たちが訪れた日は、数百年続くとされる「七夕まつり」が行われていた。先祖供養や豊穰の占いなどとされるこれらの七夕行事は伝統あるまつりであった。東日本大震災後は、犠牲となった方々への鎮魂のほか、復興支援に対する感謝の意味も込められているようだ。震災によりほとんどの山車が流出してしまった中で、それでも山車を復活させたい、七夕の伝統を継承していきたい、という地域住民の方々の強い思いが伝わってきた。七夕まつりの名物である「けんか七夕」では、「東北の奇祭」と呼ばれており、山車同士がぶつかり合う豪快かつ勇壮な「けんか」が繰り広げられるとても迫力あるお祭りであった。約900年の歴史があると言われている「けんか七夕」は、震災後も地域住民による強い思いから次の世代へと継承されている。

防潮堤工事や新たな市街地の再生など、官民連携のもと一日でも早い復興を目指し、各種事業に取り組まれている。鉄道においては、東日本大震災を起因とした大津波の影響により一関市及び大船渡に向かう JR 大船渡線において線路及び駅舎が流出したが、現在はBRTが運行されている。少子化や人口減少の進行、グローバル化の進展、地球規模の環境問題が懸念される中で、復興を成し遂げるには今後も相当の期間を要することが考えられる。このような状況の中でも、先人の残した恵まれた自然と歴史や伝統あるまちを次の世代を担う子供たちに引き継いでいく必要がある。そのためにも市民と行政とが協力し合い、協働のまちづくりが不可欠であると感じた。そして、陸前高田市はSDGs未来都市に選出されているように、子供から高齢者まで誰もが幸せな、暮らしやすいまちを地域全体で実現していくことが大切であると考えた。様々な海の幸や伝統あるまつり、スポーツによる

交流活動など、地域の特性を活かし、私たちのようなパワーのある学生が積極的に協力していきたいと感じた。

私は今回の国内研修で様々な地域住民と関わることができ、とても貴重な機会であったと感じる。また、人だけでなく馬との触れ合いからまちづくり、ホースセラピーについて学習できたことで自分の視野を広げることができた。近代化により機械化が進む中で、歴史や先人の知恵に目を向け、広い視野で考えて行動していく必要があると感じた。また、自分の目で確かめ、体験することで理解を深めることができ、フィールドワークの重要性を感じた。私はゼミ活動で、フィールドワークを中心として、地方の社会的・経済的諸問題について議論しながら学びを深めている。今回の国内研修での経験をこれからのゼミ活動に活かし、地方の魅力やまちづくりについて学んでいきたい。そして、これからも様々な地域にフィールドワークを行うことで知識を深め、自分なりのまちづくりについて議論していきたい。



→「けんか七夕」



→「馬搬」